

した。その結果、白の主題を、人間の知覚体験を前提とした【体験論的テーマ】、建築空間の表象性や建築の在り方を述べる【存在論的テーマ】、都市や自然との関係に言及する【環境論的テーマ】、設計プロセスの提示や近代主義建築の相対化を試みる【手法論的テーマ】(以下、【体験】【存在】【環境】【手法】)の4つに分類した(図4)。

3-2. 「白」に投影された建築的思考 前節で捉えた白の主題ごとに、2章で捉えた着目性質、および指示対象との対応関係を比較することで、白に投影された建築家の思考を検討する(図5)。

【体験】では《意味を剥奪》が多く、【存在】では、《意味を提示》が多い。このことは、建築家が人間の知覚体験について思考する場合、白によって建築に付着した制度的な意味を剥奪することで、空間を体験する際の人間の知覚を純化する傾向があると考えられる。また、建築の存在について思考する場合、白によって建築に記号的意味を与えることで、建築を社会的枠組の中に位置づけようとする傾向があると考えられる。【環境】では「機能的側面」、《意味を提示》が多くみられ、特に「投影性」に着目し周辺の自然環境を内部空間に積極的に取り込もうとするものや、「記号性」に着目し周辺の風土や文化に適した建築をつくろうとするものが多い。【手法】では「対比性」、

非実体的対象が多くみられ、特に建築の図式として白と他の色を対比させることでかたちや構成を導きだそうとするものが多くみられた。

4. 結 以上、建築家の言説を対象に白という言葉に投影された建築家の思考について検討した。その結果、建築家はそれぞれ、白に多様な意味を投影しており、意味を付加する場合は実体的なもの、付加しない場合は空間とともに使われる傾向があった。また、建築家の白を巡る思考は体験・存在・環境・手法といった枠組で捉えられ、特に建築空間における人間の体験について思考する際は、白を用いて制度的意味を消去することで人間の知覚体験を純化し、建築の存在について思考する際は、白を用いて建築を社会的枠組の中に位置づけようとする傾向があることを見出した。このことから、人間の知覚によって多義的な解釈を可能とする空間を建築家が志向するその一方で、空間に強い意味を担わせることを避ける傾向があると考えられる。

- 註1)ル・コルビュジェ「今日の装飾芸術」鹿島出版会(1986)
 2)参考資料:坂井卓「建築の規則—現代建築を創り読み解く可能性—」ナカニシヤ出版(2008)
 3)ここでは、国内の建築誌の中で代表的と思われる『新建築』『住宅特集』を中心とし、1955年から2011年までに掲載された作品の中で、作品名、論説名に白、whiteという言葉がつくもの、文章中に出てくる白という言葉が強調されているもの(「白」など)を中心に、白という言葉が重要なものとして明確に語られ、白の性質および白を使う根拠について明確に記述がある133作品を資料対象としている。
 4)川喜田二郎「発想法」(中央公論社)内のKJ法をもとに分析している。

【体験論的テーマ】 67	【存在論的テーマ】 63	【環境論的テーマ】 34	【手法論的テーマ】 14
A 空間の現象的性質 20 B 人間の知覚、体験 35 C 人間と周囲の関係 12	D 建築空間の表象性 47 E 建築の在り方 16	F 自然環境との関係 22 G 都市環境との関係 5 H 風土・文化との関係 7	I 設計手法の提示 9 J 近代主義建築を相対化 5
no.122 T-HOUSE (窪田勝文) 真なる空間、質感が残る肌理の荒い感じと、物の存在感が消えてしまうような尖った白い感じとの間を往来することで、視覚的な変化経験も用いて…重層化した空間体験が、自然の変化を鋭敏に察知する力をもたらして、自然と人間の意識の上での距離を近くする。	no.61 白の家 (篠原一男) 内部は白ペイント塗り。空間の表情は白。…日本の伝統の最も本質的な事物としての象徴空間を、私自身の様式を通して、ここに表現した。静的な構成に、永遠性への期待が表現される。	no.27 吾小牧市文化会館 (岡田新一) 吾小牧という都市の基調色を白として捉えた。…広大な市域を専有する製紙会社と苫東新港を含む港湾施設、市内を歩いてみると…これら新しい工業都市の面影が色濃くただよってくる。このような背景を踏まえると、基調は無彩色の白…	no.89 宮城県立迫根高等学校 (小嶋一浩) 「黒」は…用途と空間が1対1対応して固定しているスペース、「白」は…アクティビティの違いにより呼び方が変わるような流動的なスペースを指す。空間とアクティビティとの関係を図式化してとらえる方法のひとつだ…

図4 「白」の主題

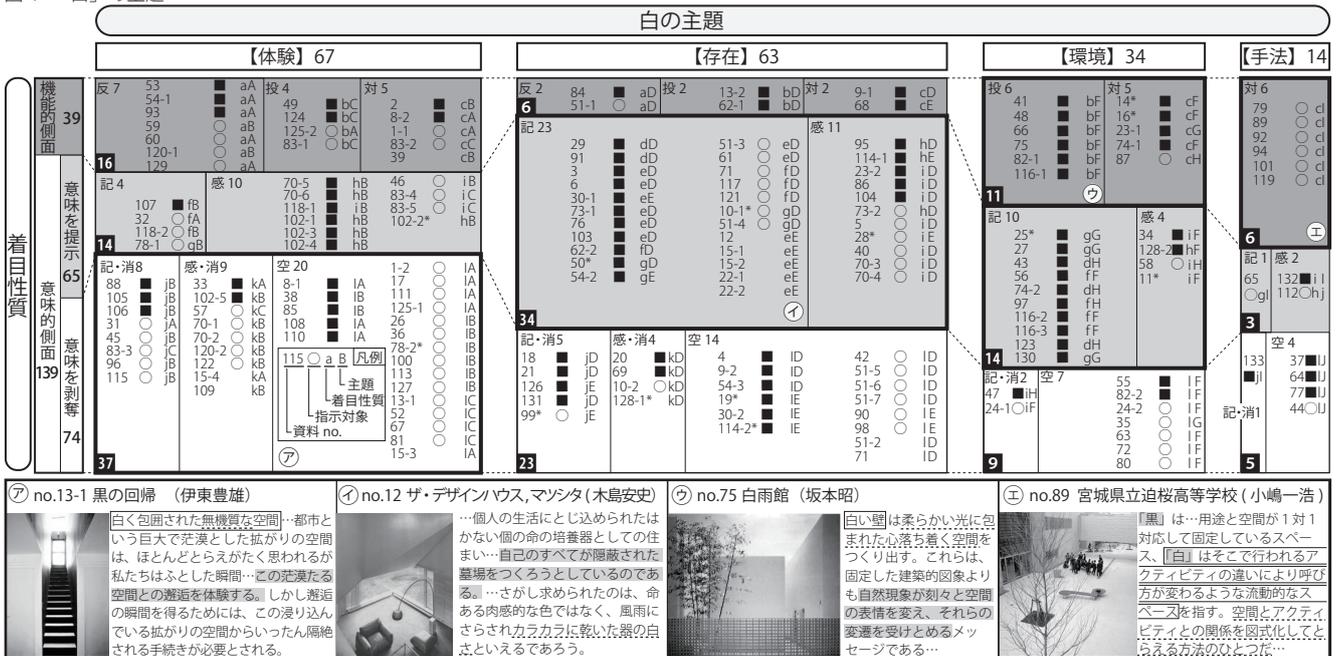


図5 着目性質と「白」の主題